

漁業経営の6次産業化推進

鹿児島地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

比較的大規模に営まれる魚類養殖業を除くと零細な沿岸漁船漁業者が大多数を占める鹿児島市に於いて、沿岸漁船漁業者自らが漁獲物を消費者に直接販売する6次産業化の動きが進んでいる。

これまで個人的であった直販の取り組みは商品（鮮魚）の品数、数量がまとまらないこともあり大きく発展する可能性が小さかったが、複数の若手漁業者がグループを結成し、漁獲物の直接販売に取り組んでいるところである。

こうした動きを後押しし、6次産業化定着に向けた動きを推進させることを目的とする。

【普及の内容・特徴】

平成24年7月、谷山漁協組合員9名により「谷山漁協朝獲れ地魚直販グループ」が結成された。地域振興推進事業（県単）を導入して、地魚の普及の先進事例研修を実施し、同年は11月から不定期に3回イベント的直販活動を行った。

平成25年度も地域振興推進事業を導入し、引き続き先進事例研修を実施するとともに、直販活動に必要な備品を整備した上、毎月第4日曜日に谷山朝獲れ市を開催した。

平成26年度は谷山朝獲れ市を継続（悪天候により1回休み）しながら、チャレンジ！元気な水産業創出支援事業（県単）を導入し、地元の物産館等への出品も目指して、関連する設備の整備を行った。

【成果・活用】

平成25年度から谷山朝獲れ市を定期開催したことで、小型定置網や一本釣りの多種多様な地魚の活魚が販売され、固定客が出来るなど地域に定着しつつある。

このような活動が認められ、同グループは鹿児島市グリーン・ツーリズム登録団体に登録され、平成27年3月鹿児島市春山町にオープンした都市農村交流センターお茶の里（物産館）へも出品することとなった。この物産館にはバックヤードがなく、パック詰めした水産物を直接搬入する必要性が生じたため、同グループの地元コンテナハウスを設置し、この中に厨房設備類を整備し、更に、魚を捌くことの出来ない消費者に三枚おろした刺身も提供できるようにしたところである。これにより、他の物産館等から出品依頼が来るなど波及効果も見られつつある。

グループによる直販活動から物産館への出品が開始されたことは、6次産業化の展開が図れるものであり、沿岸漁業者であるグループ員の所得向上と経営改善が期待される。



谷山朝獲れ市の様子



谷山朝獲れ市の様子



コンテナハウスに整備した厨房設備類



都市農村交流センターお茶の里(物産館)



物産館内の水産物販売スペース



陳列された商品